包括的な学校改善の視点：働き方改革

教師の働きがいを高める学校モデル

中核校	大樹町立大樹小学校	指定校	大樹町立大樹中学校、広尾町立豊似小学校 広尾町立広尾小学校、広尾町立広尾中学校

■　構築した学校モデルの具体

○　全教職員によるゴール設定と取組方法の共有

・働きがいを高めることを通して、学校改善を図ることについて、全教職員で共有し、働きがいとは何かについて、全教職員で話し合い、その定義や価値を明確にする場を設定する。

・働きがいの定義を「子どもの成長や本事業に係る目標の達成状況と教職員同士の認め合い、褒め合い」と設定し、全教職員で共有することにより、共通認識を育む。

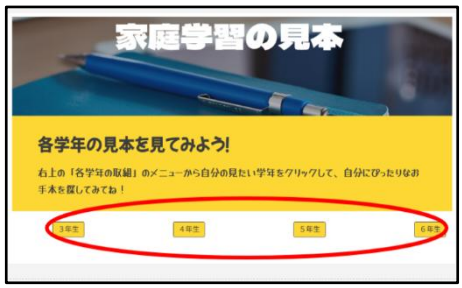
【クラウド上で意見やアイデアを集約】

○　教職員の自走を生み出す丁寧な合意形成

・子どもの成長や本事業に係る目標の達成状況が働きがいという共通認識の下、職員会議に先立ち、校務わくわく会議を実施し、各分掌が提案する取組の意義や必要性について話し合うことにより、教職員の創造性を重視しながら納得感を高める。

・学校改善に向けたアイディアを、日常的に教職員から募集し、働きがいの具体的な実現方法をクラウド上で交流する。

・教職員の負担と子どもの成長に関する費用対効果を考慮し、負担を減らしつつ成果を最大化する方法を模索することにより、教職員が自分事として業務を捉え、自己有用感を感じながら主体的に働くことができる環境を整備する。



【成功事例の共有～家庭学習の取組】

○　教職員同士で成果を認め合い褒め合う機会の創造

・教職員同士の認め合い、褒め合いが働きがいという共通認識の下、学期末毎にリフレクション会議を実施して、各分掌や学級経営、児童会活動等における成功事例や子どもの成長を共有することにより、教職員の努力や貢献の内容を掘り起こし、価値付けを行う。

【認め合い褒め合うリフレクション会議】

■　学校モデルの構築に向けた取組の具体

〔管理職の取組〕

・分掌や学年ごとの取組が学校の重点教育目標と一致するよう、各会議のファシリテーターを務めた。

・教職員の意見や取組を横断的に把握して、各教職員のリソースを適切に分配するとともに、教職員の負担軽減に向けて、業務の再構築及び外部支援の導入を検討した。

・成果の見える化に向けて、成功事例や子どもの成長を定期的に全教職員に向けて発信し、学校全体の達成感を高めるとともに、日常的に教職員の努力を認める場を設け、感謝を直接伝えることにより、教職員のモチベーションを向上させた。

〔ＩＣＴ推進部の取組〕

・全教職員のＩＣＴ活用に係るスキルアップに向けて、ベテラン教員に対し若手教員が講師となり、クラウドサービスや電子掲示板等のＩＣＴ活用に係る研修を行う逆メンター研修を実施した。

・全教職員が利用できる共有カレンダーやチャットを導入することにより、全教職員が即時的に情報共有できるよう、連絡事項を一元管理した。

■　各指定校への学校モデルの普及方策

・地域協議会において、効果的な取組事例を共有し、指定校において実践した結果について繰り返し地域協議会で交流し、取組の評価・改善を行った。

・第 32 回大樹小学校授業実践発表会において、学校教育目標の実現に資する全教職員による授業改善に係る取組を管内の学校に向けて発信した。